

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン サッポロシリツダイガク 公立大学法人 札幌市立大学									
フリガナ大学の名称	サッポロシリツダイガクダイガクイン 札幌市立大学大学院 (Graduate School of Sapporo City University)									
大学本部の位置	北海道札幌市南区芸術の森1丁目									
大学の目的	札幌市立大学大学院は、人間重視の考え方を基盤として学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、知と創造の拠点として札幌市におけるまちづくり全体により大きな価値を生み出し、地域社会に対する積極的な貢献を果たすことを目的とする。									
新設学部等の目的	デザイン研究科博士後期課程では、自立した研究者として独創的な視点から社会課題を発見するとともに、深く研究に取り組み、デザイン分野における学術の理論及び技能の高度化の追求を通じて、社会への貢献を果たすことを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	デザイン研究科 [Graduate School of Design] デザイン専攻博士後期課程 [Course of Design]  計	3  3	3  3	-  -	9  9	博士 (デザイン学)	平成24年4月 第1年次	札幌市南区芸術の森1丁目		
【基礎となる学部等】 デザイン学部デザイン学科・デザイン研究科デザイン専攻（修士課程） 14条特例の実施										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年4月研究科（博士後期課程）の設置にあわせ、修士課程を博士前期課程と改称する。</li> <li>・平成24年4月看護学研究科の専攻に係る課程の変更（博士後期課程）（平成23年5月認可申請中）</li> </ul>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	デザイン研究科 デザイン専攻博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	16単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	デザイン研究科デザイン専攻博士後期課程		10 (10)	2 (2)	1 (1)	- (-)	13 (13)	- (-)	1 (1)
		看護学研究科看護学専攻博士後期課程		10 (10)	5 (5)	0 (0)	- (-)	15 (15)	- (-)	3 (3)
		計		20 (20)	7 (7)	1 (1)	- (-)	28 (28)	0 (-)	4 (4)
	既設分	デザイン研究科デザイン専攻修士課程		14 (14)	4 (4)	2 (2)	- (-)	20 (20)	- (-)	13 (13)
		看護学研究科看護学専攻修士課程		9 (9)	6 (6)	3 (3)	- (-)	18 (18)	- (-)	23 (23)
		計		23 (23)	10 (10)	5 (5)	- (-)	38 (38)	- (-)	30 (30)
	合計			26 (26)	10 (10)	5 (5)	- (-)	41 (41)	- (-)	33 (33)
	教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
事務職員		35 (35)		7 (7)		42 (42)				
技術職員		1 (1)		2 (2)		3 (3)				
図書館専門職員		1 (1)		27 (27)		28 (28)				
その他の職員		- (-)		19 (19)		19 (19)				
計			37 (37)		55 (55)		92 (92)			

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		大学全体							
	校 舎 敷 地		162,626.75㎡	0㎡	0㎡	162,626.75㎡									
	運 動 場 用 地		18,102.00㎡	0㎡	0㎡	18,102.00㎡									
	小 計		180,728.75㎡	0㎡	0㎡	180,728.75㎡									
	そ の 他		5,040.00㎡	0㎡	0㎡	5,040.00㎡									
合 計		185,768.75㎡	0㎡	0㎡	185,768.75㎡										
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		大学全体							
			34,941.82㎡ (34,941.82㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)	34,941.82㎡ (34,941.82㎡)									
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体								
	30 室	33 室	22 室	6 室 (補助職員 -人)	0 室 (補助職員 -人)										
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称		室 数		芸術の森キャンパス								
			デザイン研究科博士後期課程		39 室										
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体						
	デザイン研究科 博士後期課程		74,000 [9,128] (71,000 [8,758])	739 [436] (739 [436])	383 [383] (383 [383])	3,250 (3,100)	6,024 ( 6,024 )	1,725 ( 1,725 )		芸術の森キャン パス(デザイン 学部と共用)					
	看護学研究科 博士後期課程		36,000 [1,661] (33,000 [1,522])	1,785 [646] (1,785 [646])	1,481 [639] (1481 [639])	1,250 (984)	5,392 ( 5,392 )	634 ( 634 )		桑園キャンパス (看護学部と共 用)					
	計		110,000 [10,788] (104,000 [10,280])	2,524 [1,082] (2,524 [1,082])	1,864 [1,022] (1,864 [1,022])	4,500 (4,000)	11,416 ( 11,416 )	2,359 ( 2,359 )							
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体							
		2,002.29㎡		223 席		110,000 冊									
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体							
		2,661.12㎡		テニスコート (2面)		トレーニング室									
経 費 の 見 積 及 び 持 続 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度		第 1 年 次		第 2 年 次		第 3 年 次		第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	大学全体 図書購入費には 電子ジャーナル の整備費(運用 コスト含む)を 含む。	
			実験系	非実験系	実験系	非実験系	実験系	非実験系	実験系	非実験系					
		教 員 1 人 当 り 研 究 費 等	教授			1,500千円	600千円	1,500千円	600千円	1,500千円	600千円	— 千円	— 千円		— 千円
			准教授			1,050千円	450千円	1,050千円	450千円	1,050千円	450千円	— 千円	— 千円		— 千円
			講師			820千円	380千円	820千円	380千円	820千円	380千円	— 千円	— 千円		— 千円
			助教			513千円	293千円	513千円	293千円	513千円	293千円	— 千円	— 千円		— 千円
			助手			450千円	230千円	450千円	230千円	450千円	230千円	— 千円	— 千円		— 千円
	共同研究費等				17,000千円		17,000千円		17,000千円		— 千円	— 千円	— 千円		
	図書購入費		30,877千円		30,877千円		30,877千円		30,877千円		— 千円	— 千円	— 千円		
	設備購入費		33,000千円		33,000千円		33,000千円		33,000千円		— 千円	— 千円	— 千円		
学 生 1 人 当 り 納 付 金		第 1 年 次		第 2 年 次		第 3 年 次		第 4 年 次		第 5 年 次		第 6 年 次			
		818千円		536千円		536千円		— 千円		— 千円		— 千円			
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要				札幌市からの運営費交付金を充当する。											
大 学 の 名 称		札幌市立大学													
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地						
デザイン学部 デザイン学科		4	80	3年次 20	360	学士(デザイン学)	1.03	平成 18年度	札幌市南区 芸術の森1丁目						
看護学部 看護学科		4	80	3年次 10	340	学士(看護学)	1.03	平成 18年度	札幌市中央区 北11条西13丁目						
デザイン研究科 デザイン専攻		2	18	-	36	修士(デザイン学)	0.97	平成 22年度	札幌市南区 芸術の森1丁目						
看護学研究科 看護学専攻		2	18	-	36	修士(看護学)	0.97	平成 22年度	札幌市中央区 北11条西13丁目						
助産学専攻科		1	10	-	10	-	1.00	平成 22年度	札幌市中央区 北11条西13丁目						
附 属 施 設 の 概 要		名称：札幌市立大学サテライトキャンパス 目的：地域連携研究センター（市民公開講座、リエゾン機能等） 所在地：札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45ビル12階 設置年月：平成18年10月（平成22年4月移転） 規模等：178㎡（専有面積）													

教育課程等の概要														
(デザイン研究科デザイン専攻博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基本科目	横断型連携特別演習	1通	2				○		1	2	1			兼3
	人間空間デザイン研究法	1前		2		○			3					オムニバス
	人間情報デザイン研究法	1前		2		○			3					オムニバス
	小計(3科目)	—	2	4	0	—			7	2	1	0	0	兼3
展開科目	人間空間デザイン特講	1後		2		○			4	1				オムニバス
	人間情報デザイン特講	1後		2		○			5					オムニバス
	博士デザイン特別演習	2前	2				○		10	2				
	小計(3科目)	—	2	4	0	—			10	2	0	0	0	
研究指導科目	博士特別研究Ⅰ	1通	2				○		10	2				
	博士特別研究Ⅱ	2通	2				○		10	2				
	博士特別研究Ⅲ	3通	4				○		10	2				
	小計(3科目)	—	8	0	0	—			10	2	0	0	0	
合計(9科目)		—	12	8	0	—			10	2	1	0	0	兼3
学位又は称号	博士(デザイン学)		学位又は学科の分野				美術関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
基本科目から4単位以上(必修2単位含む)、展開科目から4単位以上(必修2単位含む)、研究指導科目から8単位、合計16単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
〔デザイン研究科デザイン専攻(博士後期課程)〕			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本 科目	横断型連携特別演習	<p>（概要）デザイン研究科の教育・研究理念である“地域課題に対応した教育・研究”について、異分野横断型連携演習を通して学ぶ授業である。ここでは、「地域経済」、「製品造形」、「熱環境デザイン」、「建築計画」、「老年・在宅看護領域」等を専門とする複数の教員と学生一人から構成される小グループを編成し、地域社会が抱える課題を基に同一テーマを設定、グループ毎に異なる視点から調査・分析する。その後、合同発表・討論により解決策を総合化し、公開発表会等を通して行政や市民に広く提言する。併せて、研究に対する複眼的思考能力、ディベート能力、及び地域社会を構成する住民や中心的活動者との調整力を養う。</p>	
	人間空間デザイン研究法	<p>（概要）研究能力をさらに発展させるため、国際的な視点に立った研究活動を自立して推進できる能力の開発、ならびに質の高い人間空間デザインの開発へ向けた研究方法論を探究する。ここでは、人間空間デザインに関する研究方法を「建築史」、「都市計画」、「環境生態工学」の3つのテーマについて、専門教員によるオムニバス方式の授業から学習し、方法論を探究するとともに、受講者自身の研究テーマへの応用力を養成する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（7 中原 宏／6回） 都市計画に関する研究方法論として、都市研究の理論構築の枠組みについての理解、都市の解析手法についての理解、都市研究のデータ解析・考察等による理論検証、都市研究の新知見と未到達課題を抽出することのできる能力を養成する。併せて、都市の市街地構造分析、予測モデル構築、シミュレーション等の各研究手法についての理解力、および新たな研究手法開発への応用力を養成する。</p> <p>（8 羽深 久夫／5回） 人間空間デザイン分野における研究能力を発展させるため、国際的な視点に立った研究活動を自立して推進できる能力の開発、質の高い人間空間デザインの開発へ向けた研究方法論を探究する。ここでは、人間空間デザイン分野における「建築史」のテーマについて、建築史に関する研究方法論、研究課題の所在、文献調査や実測調査の方法と分析方法を通じ、建築様式に含まれる各建築形式の捉え方を理解し、建築史論のあり方について総合的に考察できる研究能力を習得する。</p> <p>（10 矢部 和夫／4回） 生態系（自然）の保全や修復、およびビオトープ造成のための基礎となる自然環境研究法をこれまでに行われた先行研究事例から学ぶ。生態系は複雑でランダムに見えるが、その中で規則性を見出し、効率的に仮説を検証するためのサンプリングデザイン方法と統計的手法を習得する。また、より確度の高い結論を導くために、得られた結果をさらに検証実験した事例を分析する。さらに研究論文の読解の中で論文の構成や論旨の流れの構築を研究し、論文の書き方を習得する。</p>	オムニバス方式
	人間情報デザイン研究法	<p>（概要）研究能力をさらに発展させるため、国際的な視点に立った研究活動を自立して推進できる能力の開発、ならびに質の高い人間情報デザインの開発へ向けた研究方法論を探究する。ここでは、人間情報デザインに関する研究方法を「感性評価」、「形状情報設計」、「視覚認知」の3つのテーマについて、専門教員によるオムニバス方式の授業から学習し、方法論を探究するとともに、受講者自身の研究テーマへの応用力を養成する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 原田 昭／4回） 人間情報デザインの研究法は、人間の感性を基盤とした評価法に焦点が集められている。感性工学における最新の研究知見を参考にして、自己の研究計画に最適な研究法を探索するため、まず、デザインにおける、ヒトの感性評価法と論理評価法の相違点を認識し、人間情報デザインに関する感性反応のデザイン開発型評価法、数理モデル型評価法、感応遷移型評価法について理解する。</p> <p>（2 城間 祥之／6回） 3次元形状表現やその計算機モデルに関する最新の研究知見を通して、数学モデルを始めとする理論的枠組みや構成要素を理解する。また、計算機実験、データ解析・考察による理論検証の方法を理解し、未到達課題の発見を試みる。さらに、IT機器における形状設計・試作品製作を対象として、各プロセスにおける外観形状の形成評価方法を習得し、受講者自身の研究計画に最適な研究法を探究する。最後に、人間情報デザイン研究法のまとめとして、「感性評価」、「形状情報設計」、「視覚認知」の研究法の特長比較を通して、研究に対する複眼的視野を養う。</p> <p>（3 石井 雅博／5回） 認知や感性に関する心理物理学、神経科学、計算理論の基礎、実験方法、データ解析手法を理解するとともに、情報デザインへの応用力・実践力を習得する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
〔デザイン研究科デザイン専攻(博士後期課程)〕			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	人間空間デザイン特講	<p>(概要) 人間空間デザイン分野におけるコースワークである本科目は、「建築史」、「都市計画」、「建築環境」、「建築設計」、「環境生態工学」の専門教員によるオムニバス方式の授業から高度専門知識を修得するとともに、博士特別研究の問題設定・解決方法を探究する能力を養成する。「建築史」は住宅様式と木構造の歴史的展開、「都市計画」は地域構造分析と都市システムモデル分析、「建築環境」は人体エクセルギー収支とエントロピー・エクセルギー理論、「建築設計」は構法設計の変遷と今後の動向、「環境生態工学」は里山・二次草原と湿原生態系の成立機構とその保全・管理に着目し、建築デザインと環境デザインの統合を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 小西 敏正/2回) 建築設計の分野として2回の授業を用意している。前半は近現代の建築物の構法設計の変遷と発展についての関連の文献を基に時代の中でその変化が如何にして起こったかなどを考える。後半は、現在、省資源の観点から日本の建築物の寿命の短さが批判的に取り上げられているが、建築物に十分な耐久性を与えるための構法を資料に基づいて検討する。さらに、文化の継承から言っても重要な建築物の保存に関わる構法設計はどうあるべきか、またその発展が如何になされてきたかなどについて探究する。</p> <p>(7 中原 宏/3回) 都市研究、都市計画に関する学術研究論文などの文献を通して、①市街地の地域構造分析に係る研究の動向、②都市のシステムモデルに係る研究の動向、③転換期にあるわが国都市計画の新たな研究手法の動向などの専門知識を修得するとともに、各自の都市研究、都市計画研究などの研究課題へ展開する能力を養成する。</p> <p>(8 羽深 久夫/4回) 人間空間デザイン分野におけるコースワークとして、「建築史」に関わる高度専門知識を修得するとともに、博士特別研究の問題設定・解決方法を探究するための俯瞰的なものの見方を養成する。文献検討から建築史に関する専門知識を自立的に修得し、各自の研究課題への応用を描くため、日本建築史の古代から近世における住宅様式の成立と展開過程と、日本建築史の古代から近世における伝統的木構造の歴史的展開過程に着目して研究課題の所在、研究内容の展開と変遷を理解する。</p> <p>(10 矢部 和夫/3回) 生物多様性保全は地球温暖化などの環境問題と同様に、地域や地球全体の環境を将来的に維持するうえで重要な課題となっている。地域において人の生活とのかかわりの中でこの課題を達成するためには人為攪乱を受けて劣化した原生自然を修復・再生するばかりでなく、人為攪乱を受けながら維持されている二次的な自然を保全することや、新たにビオトープを創出することが求められる。この課題を達成するために必要な生態学や生理学の基本知識や環境生態学的な展開事例を既存文献や資料から習得する。</p> <p>(11 齊藤 雅也/3回) 自然のポテンシャルを活かす空間のハード技術の性能を最大限に引き出すには、その内部に住まう人間のライフスタイル(ソフト技術)が「ヒトー建築」系として調和することが重要である。本講義では、照明・暖冷房システムの空間のハード技術によってもたらされる人間の感覚(明るさ感・温冷感)を対象にした、熱力学のエントロピー・エクセルギー理論による数理モデル(エクセルギー収支モデル)の理解を深め、数理モデルを応用した建築環境デザイン手法を見出すことを目指す。</p>	オムニバス方式
	人間情報デザイン特講	<p>(概要) 人間情報デザイン分野におけるコースワークと位置付ける本科目では、関係する近隣領域も含め広く高度な知識を修得するため、「人間工学」、「感性評価」、「感性インタラクション」、「形状情報設計」、「視覚認知」の専門教員によるオムニバス方式の授業を行なう。この授業を通じて、それぞれの分野における高度専門知識や、実験や評価・検証の方法論を修得するとともに、博士特別研究の問題設定・解決方法を探究するための俯瞰的、横断的なものの見方を養成する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 原田 昭/2回) 人間情報デザイン分野において、従来は身体的情報、心理的情報が扱われてきたが、近年では脳内生理情報に焦点が当てられている。本講では、生理的情報としての脳波スペクトルと感性評価の関わりについて、脳波スペクトル解析と感性評価の時間経過変異、ならびに脳波スペクトル解析による感性評価モデル構築について学ぶ。</p> <p>(2 城間 祥之/3回) 形状情報設計に関する文献検討を通して、立体形状(中身の詰まった3次元形状)の数学モデル構築理論とその特長を理解し、コンピュータアルゴリズムを修得する。さらに、立体形状表現の数学モデルの拡張性を検討し、形状情報設計を総合的に考察する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
〔デザイン研究科デザイン専攻(博士後期課程)〕			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人間情報デザイン特講	<p>(3 石井 雅博/3回) 視覚認知に関する最新の研究領域を学ぶ。具体的には、注意の効果、学習による認知の変化、聴覚や触覚情報の同時提示による視覚認知の変調などの研究を取り上げ、考察を行う。</p> <p>(6 酒井 正幸/4回) 人間工学はヒトの特性を理解した上で、ヒトと人工物との最適な関係性を探る学問領域である。本科目では効果器としての上肢・下肢の運動特性や人体寸法、感覚器としての視覚、聴覚、触覚等の物理的特性や計測法、および認知的特性の評価方法等の専門知識を学ぶとともに、関連学会誌の事例研究等を参照し製品や環境等人工物の観察を通じての問題発見、解決策の立案、および主観評価・眼球運動計測等による検証等、博士特別研究につながる研究プロセスを修得する。</p> <p>(9 細谷 多聞/3回) 感性インタラクションデザインの研究分野においては、情報工学や認知科学、美術や音楽など、さまざまな領域の研究課題がそれぞれの専門性から取り組まれてきている。しかしながら、これらの研究分野の導き得た成果を「デザイン」の視座から総合的に俯瞰することは少ない。本講義では、これらの研究の有する「情報と感性の関わり」に着目し、人間情報デザインの見地から検証を行なうことで、従来扱われてきた研究課題や、今後明らかにされるべき研究課題を示す。</p>	
展開 科目	博士デザイン特別演習	<p>(概要) 「博士特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」とセットで履修する科目である。すなわち、「人間空間デザイン研究法」または「人間情報デザイン研究法」、および「人間空間デザイン特講」または「人間情報デザイン特講」で学んだ研究手法や理論を実践的に展開することにより、その修得を深化させ、博士特別研究に繋いでいく科目である。ここでは、研究指導教員から与えられるデザイン課題について、文献調査、フィールド調査・分析、実証実験、あるいは試作品・模型製作による確認・評価等を実践し、その成果発表や報告書作成を通して、調査・分析能力、実験スキルを養成する。併せて、プレゼンテーション能力、報告書作成能力を養う。</p> <p>(1 原田 昭) コミュニティの「満足」、「安心」や「安全」のためのサービスシステムに対する新たな評価法を構築するため、ネットワークを用いたコミュニティ・サービスシステム評価の設計と演習を行う。サービスの受容者に対してサービスの供給者が想定した数種類のサービスコンテンツをネットワークで流し、サービス受容者の感性反応としての脳波スペクトルの変化を測定してシステムに対するユーザ満足度との相関を探る。この演習により、コミュニティ・サービスシステムに対する評価法確立への一歩を踏み出すことが出来る。</p> <p>(2 城間 祥之) 3次元形状情報設計に関する課題の演習を行う。すなわち、3次元形状の代表的表現法であるソリッドモデルとサーフェスモデルでIT機器の外観をデザインし、機構設計等を行い、ラビッドプロトタイプを作製する。一連のプロセスにおいて、画面に表示されたモデル、および試作した実体モデルを用いて外観形状の印象比較を行い、ソリッド・サーフェスモデルの形状特長を理解する。同様に、機構設計のし易さを操作ステップ数等から比較する。また、簡単な応用プログラムを構築し、計算機内のモデルデータへのアクセス実験等を行い、拡張・応用の可能性を探索する。</p> <p>(3 石井 雅博) 認知や感性などの脳内情報処理メカニズムの解明とそのデザインへの応用に関する課題の演習を行う。視覚情報処理や高次の認知過程を対象とする。各自の興味と教員の助言により具体的な演習テーマを設定し、実験心理学的手法や脳科学的手法により実験を行う。関連する文献の調査、実験計画の立案、実験環境の構築、実験によるデータ収集、データの解析、結果の考察などを通して研究能力を涵養する。また、得られた結果と現存するデザインとの比較を行い、応用の可能性を模索する。</p> <p>(4 石崎 友紀) 本科目ではデザイン製品における工学的性能と審美的性能の均衡に関する課題の演習を行う。コンピューター表現と手作業によるアイデアスケッチやラフモックなどの手法を組み合わせることで迅速に外観をデザインし、その形状データを基に外観設計を行い、複数のサンプルを作製する。一連のプロセスにおいて、紙面や画面上に表示されたモデル、および試作した実体モデルを用いて外観形状の印象比較を行い、クラスター分析などを用いて複数のサンプルと既存製品との比較検討を行い、工学的性能と審美的性能の均衡を実践的に理解する。</p> <p>(5 小西 敏正) 建物・街並みのデザインを構成している建築構法・部材の実地調査を行いデザインの部分と全体の関係を知る。すなわち文献調査を行い、調査対象を選択し、対象の概要をまとめる。調査計画に従って対象物を構成している構法原理、各部構法等について実地調査を行い、それに基づいて対象物の構法の特徴を分析しプロトタイプ化し図式として表現する。建築物を構成する構法や部材を実際に体験するとともに、その構法を原理として止揚させることで高度な建築の分類、位置付けを可能とする基礎能力を養う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
〔デザイン研究科デザイン専攻(博士後期課程)〕			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	博士デザイン特別演習	<p>(6 酒井 正幸) 家電機器等のコンシューマ向け製品を事例に、立案したインタフェースデザインコンセプトに基づくラビッドプロトタイプを制作し、ユーザビリティ評価、主観評価、ラフ集合分析、眼球運動計測等による実験計画の立案から実験の実施、データ解析までを実践する。この結果に基づくプロトタイプ改善のための設計指針立案、報告書作成、プレゼンテーションまでの一連のプロセスを経験する。</p> <p>(7 中原 宏) 本科目では都市の地域構造分析、および都市モデル構築に関する課題の演習を行う。すなわち、研究テーマに係る都市の地域構造の特性と、時系列的変容を把握するとともに、分析結果を基に市街地形状の変容や土地利用変容を予測するシステムモデルを構築する。さらに、コンピュータシミュレーションによりモデルの妥当性の検証を行うとともに、複数都市を対象としてモデルの適合性の検証およびモデルの改良を行う。また、政策変数を加味し、計画シミュレーターとしての有効性を評価する。</p> <p>(8 羽深 久夫) 建築史における研究課題、研究方法における実践的な応用を、歴史的建造物を具体的に定めて、その保存再生をテーマとして行なう。歴史的建造物の実測調査、資料調査を行なった上で、建築文化財としての評価を行い、歴史的建造物の保存再生に向けた活用方法を、国内外の事例調査を踏まえ、活用モデルと建築計画の作成を行なう。それらの検討を総合して、歴史的建造物の保存再生の活用に向けた基本計画を作成し、プレゼンテーションを行なう。</p> <p>(9 細谷 多聞) 本科目では、インタラクションデザインの実証的な設計に関する課題の演習を行う。具体的には、生活環境の中から新たなインタラクションデザインを導く事象を抽出し、その事象を応用的に扱った実験的なデザイン提案を設計・制作する。制作の過程においては、デザイン提案(試作)の機能や実際の使用を想定したインタラクションの検証を行なうとともに、検証結果を改善設計に結びつけるフィードバックの方法について指導を行なう。以上のプロセスを経て制作したデザイン提案は、最終的な効果測定を実施し、提案物に反映させたコンセプトの有効性を学術的に検証する方法を実践的に扱うことで、博士特別研究における研究方法の習得を目指す。</p> <p>(10 矢部 和夫) 本科目では地域生態系の保全・創出のための生物群集調査と検証実験計画および得られたデータの統計解析に関する課題の演習を、小規模で把握しやすい生態系を対象にして行う。生物群集調査では対象となる生態系について、群集景観単位の配列パターンを把握したうえで、群集と環境の調査を実施し、得られたデータの統計解析から主要な環境要因を抽出する。検証実験では、抽出された要因の効果や交互作用の有無を明らかにする。これらの調査と実験の結果から群集の成立・維持機構を推定し、これをもとに地域生態系の保全・創出のための方策を検討する。</p> <p>(11 齊藤 雅也) 本科目では、自然のポテンシャルを活かす「ヒトー建築」系の光・熱・空気環境デザインに関する課題の演習を行なう。具体的には、寒冷地特有の「雪面反射光照明」や「雪冷房」などのシステムを対象に、熱力学の概念のエクセルギー・エントロピー理論によって構築された数理モデルによって、エクセルギー消費を最適にする光・熱・空気環境デザインを提案する。さらに、デザイン提案例を模型実験や実空間での実験等により評価し、成果をまとめる。また、非専門家への普及・啓蒙のために以上の内容をわかりやすく解説する能力を養成する。</p> <p>(12 那須 聖) 本科目では、建築空間の構成形式に関する設計演習を行う。具体的には、設計対象の建築概念を構成する手段として用途等の制度・意味の側面と、形状や配列の形式的側面に着目し、それらの総合的な構成物としての建築概念を整理し、具体的な設計を行う。プロセスとして、第一に、既存の社会背景や環境等の文脈を、制度や意味的に記述することと、形式的に記述を行う。第二に、記述された文脈を前提として、それぞれの記述からの論理的発展としての建築概念を構築する。第三に、制度・意味的な建築概念と形式的な建築概念を比較検討した上で、それらの総合的な構成物として建築の設計を行う。</p>	
研究指導科目	博士特別研究 I	<p>(概要) 博士論文の作成を目指して研究指導を受ける科目である。ここでは、指導教員との議論を通して、研究テーマを決定した後、研究テーマに関する課題を明確化し、研究計画を立案する。さらに、計画に基づき研究を実施、データ等を分析・考察し、学会等での発表を通して専門的・客観的な意見を集約する。これら一連の活動を通して、研究計画書の完成を目指すとともに、研究計画書の審査に備える。</p> <p>(1 原田 昭) 人工物の設計において、ヒトが感性による評価を如何にして行っているかを理解し、論理評価との相違を述べることができ、感性評価の計測法と数量化について学び、その応用について構想する能力を養う。同時に学会発表を経て、研究計画書の完成を目指すとともに、研究計画書審査に備える。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
〔デザイン研究科デザイン専攻(博士後期課程)〕			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	博士特別研究 I	<p>(2 城間 祥之) 人間情報デザイン分野における重要な研究対象の一つである「モノ」の形状情報の設計に関する文献検討を通して研究課題を明確化し、研究計画を立案する。また、形状情報課題を解明する実験的な数学モデルを構築し、コンピュータアルゴリズムを開発、コンピュータシミュレーションにより妥当性を評価し、学会発表を経て、研究計画書の完成を目指すとともに、研究計画書審査に備える。</p> <p>(3 石井 雅博) 人間の特性を科学的に探究し、人間にとって最適な環境、物、情報の総合体を提案できる人材を育成することを目指し、人間の知覚、認知、感性システムが製品や生活環境からの情報をどのように受け取り、どのように意味づけているかを考察するための体系的な教育研究を行う。心理物理学や認知心理学などの実験心理学的手法を用いて、人間の知覚・認知・感性情報処理メカニズムの解明を目指す。また、これらの知見に基づいて科学的デザイン手法を構築する。本科目では、知覚・認知・感性情報処理における最新の研究の動向を把握し、関心のある研究テーマについて研究計画を立案することを目指す。</p> <p>(4 石崎 友紀) 製品デザイン分野における重要な研究対象の一つである「工学的性能と審美的性能の均衡」の学際的な研究を行う。文献資料などの検討を通して研究課題を明確化し、研究計画を立案する。研究テーマに沿ったサンプルを収集してクラスター分析などにより分類する。SD法、タイプ判別などによって性能を評価し、学会発表を経て、研究計画書の完成を目指すとともに、研究計画書の審査に備える。</p> <p>(5 小西 敏正) 博士後期課程の1年を対象としたもので、博士論文作成の研究指導を行う。建築構法に関連した研究の計画を立てさせ、その計画に基づき研究を実施させる。文献調査、実地調査、実験等を行いそこで得たデータを分析・考察する。また、学会等での発表を行えるように指導し、それを通して、専門的・客観的な意見の集約を可能にする。これらの一連の研究活動を促すことで、博士論文のための研究計画書の完成を進めるとともに、研究計画書審査に備える。</p> <p>(6 酒井 正幸) インタフェースデザインを人間（および動物）と人工物間のコミュニケーションを媒介する媒体として捉え、媒体として必要な物理的・認知的・感性的要件、また媒体上に表出される多様な記号の表現形式を再構成するための知識・開発方法論を修得した上で、人間と人工物間の関係性の根源を探求し、または産業界や行政等地域社会で抱える課題を解決する研究テーマを設定し、調査、仮設構築、検証を経てコンセプトを論文にまとめ上げる。博士特別研究 I では調査、仮設構築（コンセプトメイキング）を中心としたプロセスを経て、研究計画を立案する。</p> <p>(7 中原 宏) 人間空間デザイン分野における重要な研究対象の一つである「都市」の地域構造分析・モデル構築に関する文献検討を通して研究課題を明確化し、研究計画を立案する。また、市街地形状の変容や、土地利用変容予測のモデルを構築し、コンピュータシミュレーションにより妥当性を評価し、学会発表を経て、研究計画書の完成を目指すとともに、研究計画書審査に備える。</p> <p>(8 羽深 久夫) 学生との議論を通して、研究テーマを決定し、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。研究計画に基づき研究を実施、データ等を分析・考察し、学会等での口頭発表を通して専門的・客観的な意見を集約する。これら一連の活動を通して、研究計画書の完成を目指すとともに、研究計画書審査に備える。人間空間デザイン分野における「建築史」に関する文献検討を通して研究課題を明確化し、研究計画を立案し、建築史に関する課題を既往の研究から読み取る能力を習得し、研究課題や研究目的に適合した文献調査や実測調査の方法と分析方法を理解する。</p> <p>(9 細谷 多聞) 感性インタラクションデザインにおける、対象物と人間の関係構築に焦点を絞り、既往研究や文献の検討を行ないながら独自性の高い研究課題の構築を行なう。また、この過程で複数の研究課題を仮説的に立案し、それぞれの妥当性や発展性を検証することで精度の高い研究課題の構築を目指す。これらの研究プロセスは、その成果を学会発表によって公表するとともに、研究計画書の作成に反映させることで研究計画書審査に備える。</p> <p>(10 矢部 和夫) 保全や創出の対象とする生態系（自然）をたくさんの場所で予備調査し、生態系の構造や生態系を構成する群集の変異、出現パターンやそれらの地理的な変異等の現象を把握し、健全な生態系とその劣化のパターンを把握する。同時に対象とする生態系の生理生態学的な研究論文を網羅的に検討して、既存研究の現状を整理し課題を明らかにする。この二つの研究活動の中で対象生態系を保全・創出するための群集の成立と維持機構に関する一般化された仮説を構築し、新規性や独創性が期待される研究計画を立案する。セミナーや研究会での発表を通じて、同じ分野の研究者の意見を参考にしながら研究計画書の完成を目指すとともに、研究計画書審査に備える。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
〔デザイン研究科デザイン専攻(博士後期課程)〕			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	博士特別研究 I	<p>(11 齊藤 雅也)</p> <p>人間空間デザイン分野において重要な研究対象の一つである、「ヒトー建築」系の光・熱・空気環境デザインに関する既往文献を通して研究課題を明確化し、研究計画を立案する。具体的には、人間に高度な快適性をもたらす持続可能な建築環境システムを、光・熱・空気環境デザインの面から数理モデル(エクセルギー・エントロピー収支モデル)として構築し、数理モデルを被験者実験および数値解析によって評価・検証する。国内での学会発表を経て、研究計画書の完成を目指すとともに、研究計画書の審査に備える。</p> <p>(12 那須 聖)</p> <p>人間空間デザイン分野における研究対象として、現代の建築設計に関する思考である、言語的水準と具体的操作のいずれか、あるいは両者の双方について、文献の検討および実例の参照に基づいて研究課題を設定し、研究計画を立案する。言語的水準においては、設計者など建築に関わる人間による言説からその思考範囲を体系化し建築の価値基準を明らかにするための理論を検討する。また建築設計の具体的操作の水準においては、構成形式を記述する形態言語を開発について考察する。これらの検討をふまえ、学会発表を経て研究計画書の完成を目指すとともに研究計画の審査に備える。</p>	
	博士特別研究 II	<p>(概要) 博士論文の作成を目指して研究指導を受ける科目である。ここでは、「博士特別研究I」で確定した研究計画書に基づき、研究をさらに発展させて実施し、データ等を分析・考察し、研究手法の有効性を検証・評価するとともに、第1回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(1 原田 昭)</p> <p>「博士特別研究I」で構築した研究計画を再構築し、人工物の特にサービスシステム設計に焦点を当てて、特定事例に対して仮説構築、問題抽出、解決策構想、モデル構築、調査実験、最適解評価を経てシステムモデルを設計提案する能力を養う。同時に学会論文審査を経て、第1回公開発表会に備える。</p> <p>(2 城間 祥之)</p> <p>「博士特別研究I」で実験的に構築した形状情報の数学モデルをさらに発展させ、コンピュータシミュレーションにより計算精度、計算時間、メモリ占有量、形状変更の容易性、形状変更範囲の制御性、汎用性、視覚化、ラビッド・プロトタイプ向きデータへの変換容易性等の多様な観点から有効性を評価し、最適な解決手法を探求するとともに、第1回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(3 石井 雅博)</p> <p>人間の特性を科学的に探究し、人間にとって最適な環境、物、情報の総合体を提案できる人材を育成することを目指し、人間の知覚、認知、感性システムが製品や生活環境からの情報をどのように受け取り、どのように意味づけているかを考察するための体系的な教育研究を行う。心理物理学や認知心理学などの実験心理学的手法を用いて、人間の知覚・認知・感性情報処理メカニズムの解明を目指す。また、これらの知見に基づいて科学的デザイン手法を構築する。本科目では、研究計画に従って研究活動を進め、第1回公開発表会の発表に備えプレゼンテーションができるようになることを目標とする。</p> <p>(4 石崎 友紀)</p> <p>「博士特別研究I」で実験的に構築したコンセプトをさらに発展させる。手作りによる試作品を複数製作し、評価実験によって得られた適正形状を3次元測定装置等でデジタル化した後、3D CADで整形・形状修正を施し、積層造形機等によりサンプルを複数生産する。多様な観点から試作品の「工学的性能と審美的性能の均衡」の学際的な評価を行い、試作品の性能評価と既存の分析、評価手法の問題点を分析する。研究成果を論文等に纏め、学会発表等を経て独創的な解決手法を探求するとともに第1回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(5 小西 敏正)</p> <p>博士後期2年を対象とする。「博士特別研究I」で立てた計画に基づき、実施した調査の解析を行い、構築した研究の方法論を実例に対比させて検討し、必要に応じて修正するとともに追加調査を行う。構築した方法論をさらに発展させるために、文化財の修理報告書などにおける構法に関連した記述など多様な観点から比較検討し、研究方法の有効性を評価し、解決手法の最適化を図るとともに、研究結果について査読付の学術論文を投稿し第1回公開発表会における発表に備える。</p> <p>(6 酒井 正幸)</p> <p>「博士特別研究I」で構築したインタフェースデザインコンセプトに基づきディレクター等のオーサリングツールを利用してラビッドプロトタイプを制作する。次いでユーザビリティ評価、主観評価、区間AHP法、ラフ集合分析等による検証を経てプロトタイプを評価、最適解立案のための指針を得るとともに、研究手法の有効性も検証・評価したうえで、第1回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(7 中原 宏)</p> <p>「博士特別研究I」で構築した市街地形状の変容モデル、土地利用変容予測モデルをさらに発展させ、複数都市を対象としてモデルの適合性の検証およびモデルの改良を行う。また、政策変数を加味し、計画シミュレーターとしての有効性を評価するとともに、第1回公開発表会の発表に備える。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
〔デザイン研究科デザイン専攻(博士後期課程)〕			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指 導 科 目	博士特別研究Ⅱ	<p>(8 羽深 久夫) 「博士特別研究Ⅰ」で確定した研究計画に基づき、研究課題の内容をさらに発展させ、調査や分析の研究方法を検証しながら、研究を実施し、その研究内容をまとめるとともに、第1回公開発表会に向けたプレゼンテーション準備と査読論文作成を行ない、第1回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(9 細谷 多聞) 「博士特別研究Ⅰ」で実験的に構築した研究課題から導いた仮説を、より精度の高い実験計画を立て、実施することで検証する。実験の計画・実施にあたっては、感性インタラクションデザインを模倣的に体験可能なプロトタイプ装置の開発を行い、その効果的な運用を目指した実験計画を立てる。また、実験によって得られたデータを、論理的な仮説検証に役立てる分析や評価方法を扱うとともに、第1回公開発表会の研究発表に備える。</p> <p>(10 矢部 和夫) 「博士特別研究Ⅰ」で構築した研究計画に基づき、調査・研究を実施する。対象生態系から十分な数の調査地点を設定し、群集種組成を測定するとともに、水文、気象、養分などの環境を観測し攪乱の履歴を調査する。得られた結果はRや他の統計ソフトを使い群集の分布を規定する要因を解明する。博士特別研究ではこのような統計的な解析によって得られた結論を踏まえ、さらに実験的な検証を行う。室内実験または野外実験において、抽出された要因の強度を何段階かに調節して、対象となる種の成長や群集の変化を評価することで一歩踏み込んだ結論を導く。このような研究活動を遂行しながら第1回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(11 齊藤 雅也) 「博士特別研究Ⅰ」で構築した数理モデル(エクセルギー・エントロピー収支モデル)をさらに発展させ、人間空間デザインの基礎となる人間のライフスタイルを反映した「ヒトー建築」系の数理モデルの構築を目指す。具体的には、空間側のハード面の持続可能性、省資源・省エネルギー・省エクセルギー性の評価・検証に加えて、ソフト面となる人間側の「明るさ感」や「温冷感」等の予測が可能な数理モデルへの発展を目指す。以上の多様な観点から数理モデルを定量的に評価・検証し、第1回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(12 那須 聖) 「博士特別研究Ⅰ」で実験的に構築した理論に基づき、建築設計の思考の内容と過程の記述の正確さとその発展可能性という観点から、広範な資料から抽出したデータの分析を行い理論の適切性を検証する。言語的水準においては、資料とした設計者らによる言説の意味内容の類型化を図ることで思考範囲の図式化を行う。また、具体的操作としての構成形式の水準においては、建築言語を用いて資料の記述を行いその網羅性と記述された形式の類型を確認することで、形式言語の適用可能性を検証する。これらをふまえ第1回公開発表会の発表に備える。</p>	
	博士特別研究Ⅲ	<p>(概要) 博士論文の作成を目指して研究指導を受ける科目である。ここでは、「博士特別研究Ⅱ」の成果を踏まえて、研究手法や得られたデータ等を総合的に検討し、目的、方法、結果、考察、結論等を明確にし、博士論文の完成を目指すとともに、学位論文審査会および第2回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(1 原田 昭) 「博士特別研究Ⅱ」の成果を踏まえて、人間情報(感性情報)をベースとしたデータにより構築したサービスシステムに関する数理モデルやシミュレーションモデルをユーザ満足度、経済効果、生産性、実現性、等の観点から多面的に評価し、背景、目的、先行研究、仮説、方法、テストマーケティング、解析、考察、結論等を明確にして博士論文の完成を目指す。同時に、情報処理学会、日本デザイン学会、日本感性工学会等の学会誌への論文投稿を行い、最終的に、学位論文審査会を経て学位取得を目指す。</p> <p>(2 城間 祥之) 「博士特別研究Ⅱ」の成果を踏まえて、構築した数学モデルやコンピュータアルゴリズムを形状表現能力、ユーザーインタフェース(形状変更の容易性、形状変更範囲の制御性等)、応用性(ラビッド・プロトタイプング向きデータへの変換容易性等)等の観点から総合的に検討し、目的、方法、結果、考察、結論等を明確にして博士論文の完成を目指す。同時に、情報処理学会、精密工学会、日本設計工学会、日本感性工学会等の学会誌への論文投稿を行い、最終的に、学位論文審査会および第2回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(3 石井 雅博) 人間の特性を科学的に探究し、人間にとって最適な環境、物、情報の総合体を提案できる人材を育成することを目指し、人間の知覚、認知、感性システムが製品や生活環境からの情報をどのように受け取り、どのように意味づけているかを考察するための体系的な教育研究を行う。心理物理学や認知心理学などの実験心理学的手法を用いて、人間の知覚・認知・感性情報処理メカニズムの解明を目指す。また、これらの知見に基づいて科学的デザイン手法を構築する。本科目では、博士論文を作成でき、研究成果をプレゼンテーションできるようになることを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
〔デザイン研究科デザイン専攻(博士後期課程)〕			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	博士特別研究Ⅲ	<p>(4 石崎 友紀) 「博士特別研究II」の成果を踏まえて、研究の成果を総合的に検討し、研究をまとめる。その際、デザイン製品の「工学的性能と審美的性能の均衡」を評価する手法として、従来型を改善した新手法を明らかにし、その特徴、本手法を適用した実験結果、考察、結論等を明確にして博士論文の完成を目指す。同時に、日本デザイン学会、芸術工学会、道具学会、環境芸術学会等の学会誌への原著論文投稿を行い、最終的に、学位論文審査会および第2回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(5 小西 敏正) 博士後期3年を対象とする。「博士特別研究Ⅰ・Ⅱ」の成果を踏まえて、構築した方法論が建築の個々の事例の持つ多様な特性を包含できるか、表現、引用文献等が適切であるかなどを総合的に検討する。理論構成を明確にして完成度を高めた上で、目的、方法、結果、考察、結論等を確認して、博士論文の完成を目指す。同時に、日本建築学会等の学術誌への論文投稿を行い、最終的に、学位論文審査会に臨み第2回公開発表会において発表を行う。</p> <p>(6 酒井 正幸) 博士特別研究Ⅰ、Ⅱで得られたデータを整理し、論理的な推論を経て、背景、目的、方法、結果、考察、結論等を明確にし博士論文の完成を目指す。同時に、日本感性工学会、日本デザイン学会、日本人間工学会等の学会誌への論文投稿を行い、最終的に、学位論文審査会および第2回公開発表会の発表に備える。尚、ここでは和文論文のみならず英文論文の作成も行う。</p> <p>(7 中原 宏) 「博士特別研究II」の成果を踏まえて、構築した市街地形状の変容モデル、土地利用変容予測モデルを計画シミュレーターの観点から総合的に検討し、目的、方法、結果、考察、結論等を明確にして博士論文の完成を目指す。同時に、日本都市計画学会、日本建築学会等の学会誌への論文投稿を行い、最終的に、学位論文審査会および第2回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(8 羽深 久夫) 「博士特別研究II」の成果を踏まえて、調査方法と分析方法の検討を行ない、得られた結果に対する検証を行なうとともに、萌芽性・発展性・独創性、学術的及び技術的有用性・実用性を重視しながら、信頼性や完成度も評価できるように総合的に検討し、目的、方法、結果、考察、結論等を明確にして博士論文の完成を目指す。同時に、表現・引用文献・注の適切さを確認しながら、日本建築学会等の関連学会への査読論文の投稿を行い、最終的に、学位論文審査会および第2回公開発表会の発表を行なう。</p> <p>(9 細谷 多聞) 「博士特別研究Ⅱ」の成果を踏まえて、仮説検証によって導いた感性インタラクションデザインの構成要素を、人間情報デザインの広い知見から、総合的に位置づける。また、研究全体のプロセスを論理的に俯瞰することで、研究の目的、方法、結果、考察、結論の明確化を行い、博士論文の完成を目指す。同時に、日本感性工学会、日本デザイン学会、情報処理学会等の学会誌に論文投稿を行い、最終的に学位論文審査会および第2回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(10 矢部 和夫) 「博士特別研究II」の成果を踏まえて、既存研究を網羅して、該当研究の解析の妥当性や結果の普遍性、独創性や新規性等の観点から総合的に検討する。次に、環境生態工学的な展開等を明確にして、目的、方法、結果および考察に至る博士論文の完成を目指す。同時に、応用生態工学会誌、保全生態学研究などの国内誌ばかりでなく、Journal of Ecology, Applied Vegetation Science, Landscape and Ecological Engineeringなどの国際誌も視野に入れた論文投稿を行い、最終的に、学位論文審査会および第2回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(11 齊藤 雅也) 「博士特別研究II」までの成果を踏まえて、完成度の高まった「ヒトー建築」系の数理モデル(エクセルギー・エントロピー収支モデル)を、実空間の計画設計における光・熱・空気環境デザインに援用する方法を具体的に検討する。3年目までの以上の内容について、目的、方法、結果、考察、結論等を明確にして博士論文の完成を目指す。同時に、日本建築学会、空調調和・衛生工学会、日本太陽エネルギー学会、日本感性工学会等の学術論文への投稿、国際会議への研究発表を行ない、最終的に、学位論文審査会および第2回公開発表会の発表に備える。</p> <p>(12 那須 聖) 「博士特別研究II」の成果を踏まえて、建築設計の思考範囲に関する言語的水準の理論や、具体的操作の水準としての構成形式に関する建築言語の理論を、それぞれ計画・設計の段階へ適用する可能性について総合的に検討し、それらを適用した建築空間モデルの基本概念を構築する。以上の内容を目的、方法、結果、考察、結論等を明確にして博士論文の完成を目指す。また、日本建築学会などの学会誌への論文投稿を行い、最終的に、学位論文審査会および第2回公開発表会の発表に備える。</p>	